

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	(仮称)ディークレスト幸西 シングル棟新築工事	
建設地	新潟県新潟市中央区幸西二丁目263番1	
用途地域	第二種住居地域、準防火地域	
建物用途	集合住宅	
竣工年	2023年5月 予定	
敷地面積	2,222.42 m ²	
建築面積	304.33 m ²	
延床面積	3,104.65 m ²	
階数	地上14F	
構造	RC造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2021年7月25日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{44.0}{42.5} = 1.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.0		バリアフリー計画	Q2.1.1.3 3.0
			維持管理	Q2.1.3 3.0
			設備の更新性	Q2.3.3 3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	2.9		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1 3.0
			信頼性	Q2.2.4 2.8
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1 2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.5		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1 4.0
			自然エネルギー利用	LR1.2 3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.0		節水	LR2.1.1 3.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4 1.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6 5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	2.0		生物環境の保全と創出	Q3.1 1.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2 3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	3.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2 3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1 3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- 躯体は劣化対策等級2相当とし、設備は耐用年数の長い配管材を採用し建物の長寿命化に配慮している。
- PS、天井内配管等により設備との錯綜を回避し、部材の再利用の可能性を高めている。

CASBEE®新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ディーフレスト幸西 シングル棟新築工事	階数	地上14F
建設地	新潟県新潟市中央区幸西二丁目263番1	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	75人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年5月 予定	評価の実施日	2021年7月25日
敷地面積	2,222 m ²	作成者	(株)ワシツ設計
建築面積	304 m ²	確認日	2021年7月25日
延床面積	3,105 m ²	確認者	(株)ワシツ設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 内装建材にF☆☆☆☆を採用し、自然光を取り入れ、昼光率を高め、室内環境に配慮している。		その他 特になし
Q1 室内環境 F☆☆☆☆の内装建材を採用し、室内空気環境に配慮している。	Q2 サービス性能 躯体は劣化対策等級2相当とし、設備は耐用年数の長い配管材を採用し建物の長寿命化に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 空地率を確保し、風の通り道を確保している。
LR1 エネルギー LED照明を採用し、省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル PS、天井内配管等により設備との錯綜を回避し、部材の再利用の可能性を高めている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を参照値より抑制し、地球温暖化への配慮をしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される